

## 日銀の視点

今年の秋は、県北芸術祭の鑑賞のため、県北地域を巡り、深まりゆく秋を堪能しました。

正直、門外漢の私には、現代アートの評価は難しく、素直に感動できた作品もあれば、その難解さに首をかしげるだけの作品もありました。それでも、友人と一緒に、作品を論評し合いながら訪ね歩けば、人それぞれの価値観の差を感じるなど、いろいろな楽しみ方ができました。

一番の収穫は、作品鑑賞を通じて、じっくり巡ることにより、これまで気付かなかった県北地域の自然の美しさや食の豊かさを再認識させてくれたことです。

日銀水戸事務所長 鶴屋 洋一郎

# 「県北芸術祭」を訪れて

県北地域にはこれまで何度も足を運びましたが、五浦海岸、袋田の滝、竜神大吊橋といった観光スポットを車で移動するだけでした。しかし今回、地図とパスポートを手に、作品を探し求めるうち、面として県北地域を訪ねることとなりました。北茨城から日立まで、途切れるこ

ちながらも、その知名度が低いことや、県民の方々が県内他地域の魅力を十分に知らず、それ故に上手に情報発信しきれないことなども一因ではな

いかと思います。県内観光地の知名度引き上げのためには、さまざまな媒体を通じて、茨城の魅力を発信して

78万人の来場を得たことは大きな成果だと思います。期間の終盤に向け、県北芸術祭をSNS上で目にする機会が増えていったように思います。

また、県民の中には、開催期間中、複数回、県北地域に足を運ばれた方も多かったのではないのでしょうか。茨城に生まれ育

った方にとっても、県北の魅力を再認識する機会になったのではないのでしょうか。

となく美しい海岸線が続いていることや、国道から離れた久慈川べりにドキッとするくらい美しい紅葉を映す水面があることなども知りました。今年も残念ながら、都道府県魅力度ランキングでは、茨城県が最下位となりました。いろいろ理由はあると思いますが、せっかく素晴らしい観光資源を持

いくことが重要です。特に近年、会員制交流サイト（SNS）を通じた口コミの力が強まっているため、人々に実際に足を運んでもらって、その魅力をブログやフェイスブックなどで発信してもらうことが効果的となって

います。その意味では、県北芸術祭の開催といった仕掛けにより、約

(第2土曜掲載)